

## Eコース ポスト巡検 南紀熊野ジオパークセンターとジオサイトの見学

日程：8月24日（月）～25日（火）一泊二日

定員：8人、最小携行人数5人

参加費：11,200円（宿泊代、バス代、傷害保険代）人数により若干の変動あり。

（ただし、串本駅までの往復電車賃、8月24,25日の昼食代は含まず）

地形図：1/25,000「田並」「串本」（資料にも地形図は掲載予定）

案内者：鈴木博之（京都支部）、別所孝範（和歌山支部）

集合：8月24日（月）JR串本駅11:10（和歌山発8:50特急くろしお1号、串本到着11:03）

解散：8月25日（火）JR串本駅12:30（串本発13:37特急くろしお24号、天王寺着16:33）

コースとおもな見学内容（⇒：コミュニティバスでの移動、→：徒歩移動）

8月24日（月）串本駅（集合）⇒①不整合観察→②サラシ首層⇒串本駅⇒串本観光タワー⇒宿舎「岬ロジニシダ」

8月25日（火）宿舎発⇒潮岬灯台→③潮岬火成複合岩体→④南紀熊野ジオパークセンター⇒串本駅→⑤橋杭岩⇒串本駅（解散）

### 魅力と見どころ

黒潮洗う紀伊半島南部の海岸地域の地質スポットを巡る巡検です。波蝕台には古第三系の付加体である牟婁付加シーケンス（牟婁AS：牟婁層群）やそれを不整合に覆う新第三系中新統の熊野層群、そしてそれらに貫入した火成岩体が素晴らしい露頭として見られます。初日はまず、①牟婁ASと新第三系中新統の熊野層群との①不整合を観察します(写真1)。激しくスランプ褶曲する牟婁ASの上に整然と成層した熊野層群が累重する様子や不整合礫も見ることができます。そして、つぎに今話題となっている含礫泥岩層である②サラシ首層を観察します(写真2)。波蝕により泥岩層から大小さまざまな砂岩や礫岩礫が突出する異様な光景、この地層にサラシ首層というフィールドネームが付いたのも頷けます。今話題というのは、この地層の成因について海底土流説や泥火山説などがあり、未だに決着がついていないからです。是非、現地でも議論しましょう。

二日目の最初は白亜の潮岬灯台を見たあと、海岸で出て③潮岬火成複合岩体を観察します。この複合火成岩体は約1500万年前から1400万年前に活動した珪長質および苦鉄質火成岩の複合岩体です。ここでは海底に噴出した玄武岩溶岩とそれを貫く珪長質火成岩脈が見られます。海底噴火の証拠として見事な枕状溶岩が見られ、珪長質火成岩脈内部には周縁急冷相や流動分化を示す斜長石斑晶が観察できます。この後、④南紀熊野ジオパークセンターの見学を行います。このセンターは南紀熊野ジオパークの拠点施設として昨年（2019年7月）に開所したばかりです。目玉は紀伊半島の大型地形模型とプロジェクションマッピングなどでジオパークの魅力をつかむことができます。ここにはジオガイドさんが常駐し、丁寧な案内をして下さいます。最後に⑤橋杭岩の観察を行います。ここでは、北北西から南南東に向けて大小25個あまりの岩塔が南の大島に向けて並んでいます。一見、橋の杭がならんでいるように見えることからこの名があります。正体は約1400万年前に熊野層群に貫入した石英斑岩の火成岩脈です。ここでは熊野層群の成層した泥岩層との貫入面も見られます。和歌山駅から本州最南端の串本駅まで特急で約2時間、途中、車窓からは素晴らしい南紀の海が望めます。皆さんの是非の参加をお待ちしています。



写真1 牟婁ASと熊野層群との不整合



写真2 サラシ首層（含角礫泥岩層）